



知床科学委員会 しんぶん

ヒグマワーキンググループ

NO.25

知床半島におけるヒグマの管理に関する検討を行うため、「ヒグマワーキンググループ」会議が開催されました（第1回：2022年8月3日、第2回：2022年12月15日）。

会議では2022年4月から始まった「第2期知床半島ヒグマ管理計画」の進捗状況が報告され、対策やモニタリングの年単位の実施項目を定める「アクションプラン」について議論しました。

TOPIC
1

問題個体の動きや頭数

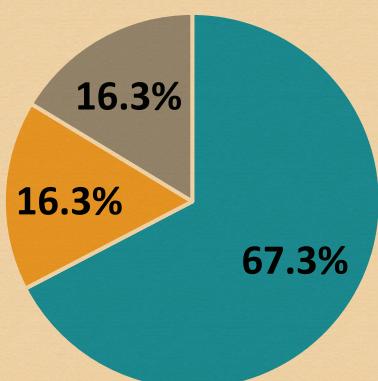
ヒグマによる被害は、一部の問題個体が原因となって連続して被害を出すことが多いため、個体数の増加に単純に比例して被害件数が増加するわけではありません。被害の軽減のためには、問題個体を適切に捕殺することや増加させないことが重要です。このことから、問題個体の動きや頭数を把握するため、有害捕獲等によって死亡した個体の筋肉片やヒグマ出没時に収集された糞・毛・唾液などのDNA分析を行い、個体の識別をしています。

2022年（10月末時点）にDNA分析で識別された個体は74頭、人間の食べ物やゴミ、農作物に餌付いたり、市街地へ侵入した問題個体は49頭でした。このうち、35頭はすでに捕獲されており、捕獲理由としては農地出没・農作物加害が13頭と最も多く、次いで市街地への侵入が12頭でした。

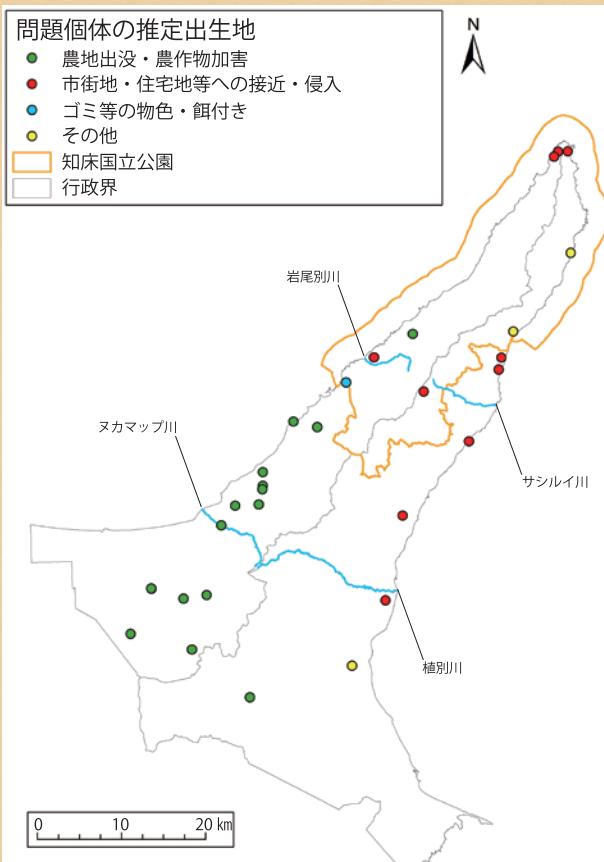
なお、問題個体49頭のうち、DNA分析による血縁関係から41頭の推定の出生地が分かり、知床国立公園外生まれの個体が33頭、公園内生まれの個体が8頭でした。

問題個体を生じさせる要因は様々なものが考えられますが、ヒグマによる被害を減少させるためには公園区域の枠組みにとらわれない対策が重要です。

推定出生地の割合



■ 国立公園外 ■ 国立公園内 ■ 不明



TOPIC 2

要注意！問題個体

国道334号線の知床横断道路において、2022年5月以降、ヒグマが車両に近づいたり、ドアミラーをへし折る事例が繰り返し起きました。冬期通行止めの期間に捕獲を試みましたが捕獲できておらず、来年度も出没して同様の問題を起こす可能性があります。

道路を走行する際、もしヒグマに出会っても、降車せずスピードを落としてすみやかに通過するようお願いします。



TOPIC 3

2023年は大量出没…？

研究（※）により、知床半島では晩夏の主要食物であるハイマツ球果とサケ科魚類（主にカラフトマス）、秋のミズナラ堅果の3つの餌資源が同時に不足するとヒグマの大量出没が起きる傾向にあることが分かってきています。

過去の事例や2022年の調査結果を踏まえると、2023年は斜里側のミズナラが凶作年となり、カラフトマスも不漁年となることが予想されています。さらに、2023年に成熟するハイマツの未成熟球果があまり結実していなかったという報告もあるため、2023年はヒグマの大量出没に十分に注意すべきとの意見が出されました。



※環境研究総合推進費「遺産価値向上に向けた知床半島における大型哺乳類の保全管理手法の開発」（令和元年度～令和3年度、東京農工大・北海道立総合研究機構・北海道大学・知床財団）

知床半島ヒグマ管理計画とは

住民の生活や産業を守り、利用者（＝観光や登山等を目的とした来訪者）の安全と良質な自然体験の場を確保しながら、サケ科魚類等の捕食を通じて知床半島の海域と陸域の生態系の物質循環に貢献するヒグマについて、その生態や個体群を将来にわたって持続的に維持することを目的としています。関係行政機関や地域関係団体等で連携・協力して、各種対策・調査等に取り組んでいます。

会議の内容をさらに詳しく知りたい方はこちら

知床データセンターのアドレスが変わりました
<http://shiretokodata-center.env.go.jp/>

■制作・発行■

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階